2023.6月号

グループ通信

ふれディア
FUREDHIA

発行／ふれディアグループ本部　編集部
〒351-0022 埼玉県朝霞市東弁財1-3-4
朝霞台駅前ビル8F
全国相談窓口 0120-116-017

こんにちは、ふれディア通信編集部です。　今年もあっという間に６月になりました。　６月ともなると様々な昆虫の動きがより活発になりますが、**６月は１年のうちで最もミツバチの数が多くなる時期**だそうです。　冬の間は巣にこもって寒さをしのいでいたミツバチたちは、春の訪れとともに動き出します。　れんげや菜の花など春の花が咲きすすむにつれ、新しい働き蜂がどんどんと生まれて、６月にはその数なんと３倍にもなるそう。　花から花へと飛び回り、**受粉を手助け**するミツバチは、植物にとってもその植物を食料としている人間にとっても重要な存在。　**食のサイクルの要**といえる、重要な役割を果たしています。　ヨーロッパには**「ミツバチの歴史は人類の歴史」**ということわざもあるそうです。　人間との関わりが深く、ハチミツやミツロウなど、貴重な恵みをもたらしてくれる存在として大切にされてきたんですね。　そして、中世ヨーロッパの**ミツバチ農家**では、**「飼い主の家族に起こった重大なできごとをミツバチに報告する」**という習慣があったそうですよ。　飼い主が亡くなった時にはその経緯を詳しく説明し、巣箱を黒い布で覆います。　喪に服すという意味があるのでしょうか。　また、飼い主の娘が結婚する時は、新郎の名前などを報告。　そういったことをきちんと行わないと、飼い主の死を悲しんだミツバチが巣から逃げ出したり、娘の結婚話など聞いてないと怒って誰かれ構わず人を刺すといわれています。　ハチミツは人類最古の甘味といわれ、**古代エジプトでは外傷手術の際に使われていた**という記録が残っています。　栄養価の高い食品としての価値だけでなく、**高い抗菌・抗炎症作用**が知られていたのですね。　近頃は**都心のビルの屋上などを活用**してミツバチを育て、ハチミツを採取するプロジェクトが注目されています。　ニューヨークやパリなどの欧米をはじめ、東京・大阪・札幌といった日本でも**都市養蜂**が行なわれています。　そのうち、自然とその地域に花粉が採れる緑を増やそうとする動きが生まれて、ミツバチにとっても人にとっても潤いのある環境に近づく、嬉しい循環ができていったら良いですよね。　そして、各地で“地産地消”のおいしいハチミツを味わうことができたら最高です。　それでは、今月も元気にお過ごしください。

ふれディア通信編集部

“脳トレーニング”で脳年齢を若く・脳を活性化！

鏡（かがみ）の国の間違いさがし。　間違いは全部で５つ！

以下の**左側の絵**を、**鏡に映（うつ）したのが右側の絵**です。　ただし、**右側の絵には左側の絵とは違うところが５つ**あります。　それはどこでしょうか？

問題

“解答”は他のページに載っています。答えがわかるまでじっくり考えることが脳の活性化につながります！